



日本平ホテル

ご予約・お問い合わせ TEL (054) 335-1131 〒424-0875 静岡市清水区馬走1500-2 www.ndhl.jp

広重が描いた茅葺きを今の時代に残したい



東海道丸子宿
丁子屋
14代目
柴山広行さん

丁子屋は、浮世絵に描かれた店の中で、唯一現役で営業する店です。その象徴は、広重の絵を思い浮かべさせる「茅葺き屋根」。丁子屋のシンボルであり、東海道の宿場のシンボルです。

しかし、その維持には20年ごとに1千万円以上かかるなど継続がむずかしくなっています。前回の修繕から約40年がたち、老朽化が激しく、このまま放置しては、修繕すること自体がむずかしくなってしまう。

丁子屋の歴史を振り返るときに、私自身とても大切にしているエピソードがあります。昭和45年。時代は高度成長期。古い家を取り壊し、近代的な建物に替わる中、じーちゃんは「丁子屋には何にも替え難い歴史がある」という信念のもと、広重が描いた「茅葺き屋根」を移築、復活させたのです。

だからこそ、じーちゃんから受け継いだ風景を、14代目の私も守り続けたいのです。

茅葺き屋根職人は現在、全国で200人程度。加えて高齢化により、技術の伝承が危ぶまれています。茅葺き屋根を後世に残していくためにも、葺替え、保

存をしていく必要があります。

今回のプロジェクトには、東海道を盛り上げている宿場の方々に協力いただいています。東西の宿場を繋げることは、東海道の未来を守ることなのです。私は東海道の歴史が未来へ継承されるように、責任を持って次の世代にバトンを届けたいと思います。

広重が残した風景を未来に繋ぎ、東海道の宿場を繋げ、盛り上げていくためにも、茅葺き屋根の修繕を行います。皆様の温かい応援をお願い致します。

クラウドファンディング

「Ready for 丁子屋」は、こちら。

<https://readyfor.jp/projects/torotoro-kaidochojiya>



1970年の移築時の様子